

井戸端だより

第74号

発行日：2011.6.22

発行：くらしの学習会

東日本大震災から3か月余り、震災直後の会報発行時には、原子力発電所の事故も、これほどまでに大変で、封じ込めにこんなに時間がかかるとは思っていませんでした。毎日入ってくるニュースは当初の想定の甘さ、いかに非常時が重なった時の対処ができていなかったかを伝えるものばかりで、唯一の被爆国日本の原子力平和利用がこんなにいい加減な考え、土台の上に進んでいたのかを知り、愕然とせざるを得ません。

私たち一人一人が、電気依存の生活を見直し、今後のエネルギー問題に自ら取り組んでいかなければと思います。政府が、政治家が、ダメでも、日本国民はまだ捨てたもんじゃ無いというところを、世界に示したいものです。

第74号会報をお送りします。読んで何かを感じていただければ幸いです。

目次

・4月例会報告P.2
・中村さんを囲んでP.3
・ジャコウアゲハ 2011・春P.4
・5月例会報告P.5~6
・『蝶の来る庭 ミニパネル展』その後P.7
・愛媛新聞切り抜き(6月6日)P.8
・6月例会報告P.9~10
・リフォームP.11
・おからでショコラケーキP.12
・賞味期限P.13
・雑感P.14~17
・春の同居虫P.18
・パネル展 in 川内来場者の声P.19
・お知らせ・編集後記P.20



4月例会報告

4月例会報告 (4月4日14:00～ 林さん宅)

くらしの学習会が東温市中央公民館で開催した「蝶のくる庭」のパネル展(3/11～31)を見て声をかけて下さった島根大学学長特任講師中村秋紀氏をお迎えしてお話をお聞きした。

元愛媛県緑化センター(現森の交流センター)の所長として勤務されていた時、蝶の「アサギマダラ」の研究をされ、マーキング(ESS-168 ナカムラ)をして皿が峯から放蝶したものが、愛媛県三崎半島で補獲された実例も紹介された。その後田窪の自宅の庭にきた「アサギマダラ」もマーキングをし生態の研究をされた。

また、丹原町来見には名桜「陽春」の原木があり、陽春は約100年位前に植えられたソメイヨシノが変種したものでソメイヨシノよりもふっくらとした大きな花が特徴とか。来年には是非観賞してみたい。

今年2月末から3月にかけて10回にわたり愛媛新聞に連載された「平和の使者陽光」の切り抜き記事を資料としていただいた。

東温市須之内の故高岡正明氏が作り出した、「陽光」は「アマギヨシノ」と「カンヒザクラ」を交配して『教え子の供養と世界平和建設』の願いを込め四半世紀以上の苦難の末に完成したもの。今その時期には東温市内は勿論日本中いや世界のあちこちにも華麗な紅色の桜が咲き誇っているという。いつとき日本中を紅色に染める桜、人々の心を癒す桜、毎年当り前のように見ている桜に、こんなに身近な場所で研究を重ね苦悩の末生まれたものだったのかと感動し、その努力に敬服した。

7～8年も前になろうか、伯方島の兄から「陽光」を欲しいと言って来た。早速一年生の苗を5本高岡紅葉園で買い求めた。今3本が根付き瀬戸内海の風を受けて海を見下ろしている。

先日久し振りに緑の交流センターへ行ってみた。以前に比べると手入れが行き届いている様には思えないのは残念。20年前頃にはあれこれ講座に参加し花や木の育て方を勉強した。その講座で挿し木した数種類の花木が団地の入口の緑地帯で大きく育ち、手入れをするたびに当時を思い出し特に蝶の姿を見るとワクワクする。

最後にくらしの学習会が発行した「蝶の来る庭」の楠先生のお話からを引用された。「自分の家や自分の町を生き物に思いやりのあるものにしていけば、少しは豊かな自然環境を取り戻せるのではないのでしょうか。たとえば、庭に蝶の好きな木を一本植えても、町全体では何千本にもなります。それがその町の文化、植物文化なのだと思います。」

後日、中村先生からくらしの学習会の希望者に、フジバカマをいただいた。

(S. K)



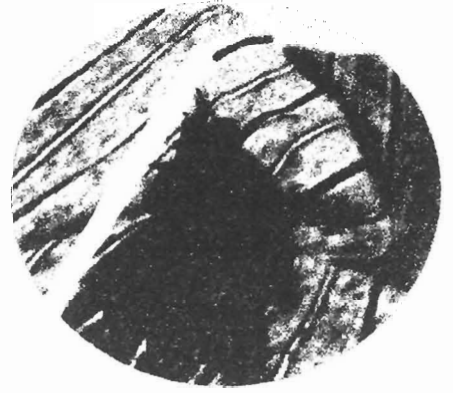
4月4日の例会には元緑化センター所長の中村さんにお越し頂きました。緑化センターは東温市に広い敷地を持つすばらしい植物公園ですが、中村さんはその設立当時から中心となって活躍されました。当時すぐ横を通る高速道路からの騒音を防ぐ防音林としてバンブーを植えた話、建築の形容にこだわったという亜熱帯植物園、また、樹木の中を抜ける通路には「かたらいのみち」、「かおりのみち」という名前を付けて夢のある場所にしたことなど伺いました。そして今は蝶にも関心があって、アサギマダラの渡りを追跡するためのマーキングにも参加されているそうです。生物関係の専門家ですので、本当におもしろいお話がたくさん聞けました。印象に残ったのは「春の女神といえばギフチョウですが、このあたりではツマキチョウが私は春の女神だと思います。一年に一度だけ姿を見せる可憐な蝶です」と言われたことです。私も常々そう思っていたので嬉しくなりました。そしてあっという間の楽しい時間が過ぎていきました。(K・K)



ジャコウアゲハ 2011・春

2011. 3. 5

昨年の秋に蛹となったジャコウアゲハのうちの数個を家の中で越冬させていた。夜8時前に羽化したばかりのジャコウアゲハを発見。早速写真を撮ったあと、庭に放す。



2011. 3. 6

朝、9時半 昨夜放した場所でばたばたしている姿をみた。

2011. 3. 7

数頭のジャコウアゲハが庭で舞っている。

～まだまだ寒いこの時期、庭には花はあまり咲いていない食べ物足りかしら～

2011. 4. 9

近所の庭(戸外)で越冬していたジャコウアゲハが羽化した。抜け殻を数頭確認。雄が多い。～近所の庭の花から花へと飛ぶ姿に喜び合う ヤツタネ!～

2011. 4. 12

数頭になると高く飛びじゃれあうような姿をみる。

～仲間が増えてよかった。ウマノスズクサは茎の部分は伸び出したがまだ卵を産みつけるほど葉っぱは育っていないのが気になる。～

2011. 4. 13～

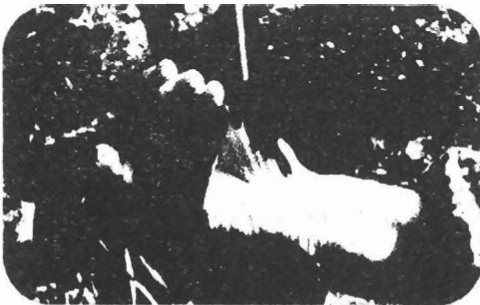
数頭が飛びまわっている。

2011. 4. 30

Hさんご夫妻が中村さんから頂いたからと「フジバカマ」の苗を持ってきて下さった。ジャコウアゲハはお二人を歓迎した。

5月に入るとぱったり姿が見えなくなったが中旬頃に、近くの畑で仕事をしている時にチラリと一頭見かけた。それ以来姿は確認できていない。ウマノスズ草は

学習会の会員の庭や団地のご近所にも根付き葉も茂ってきた。しかし肝心のジャコウアゲハの気配は今はない。K・Kさんに相談してみた。「家にも勤務先にも幼虫が育っていない」と。7月に入れば重信川の土手へ探しに行こうと約束した。 (S・K)



5月例会報告

昨年から『蝶のくる庭 ミニパネル展』準備の為、室内作業が続いたので久し振りに新緑を求め久万高原町へでかけることになりました。5月17日（水）5名（活動会員4名・活動会員の妹さん）でHさんの運転で出発。久万高原町へ通い慣れているSa.kさん推薦の道（久谷地区の山沿いで自然一杯の山越えの道）を走り33号線の途中に出て久万高原町へ。

ここでの第1の目的地グループホーム『シオンの家』へ（Sa.kさんの自宅を解放し地域の方々が運営している施設）昨年亡くなられたご主人が設計された二棟の建物・桜やつつじが植えられている庭を含め500坪と広い自宅でした。入所・通所の皆さんは、家庭的な施設でセンター長やヘルパーさんのこまやかな介護を受け穏やかな日々を過ごされていました。ただ、こちらの施設も様々な事情により来年には新しい施設に移動が決まっているそうです。

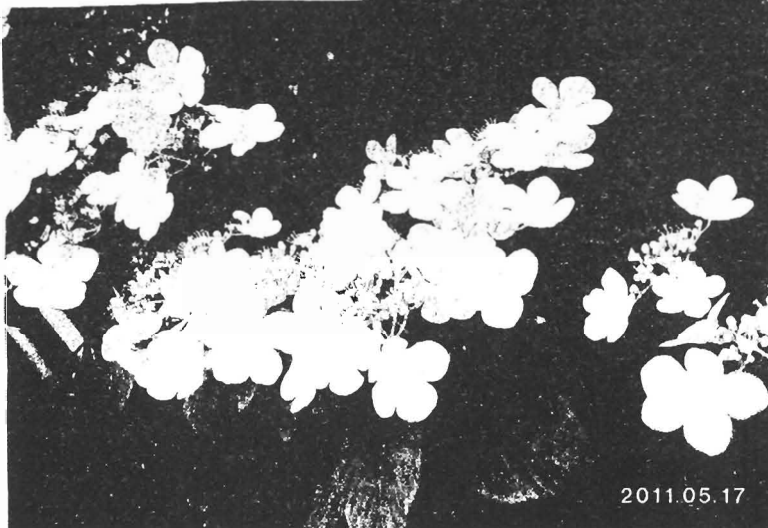
『シオンの家』を後に、昼食の予約をしてある『こもれび』へ。甲斐工房の娘さんご夫婦が営業されているレストラン、2008年11月に伺った時は休日で頂くことができなかったので念願が叶いました。予約をしておいたので席の用意がされていて良かったのですが、とても混んでいました。甲斐工房の木の皿にオードブルが盛られ、スープ・メイン（4人は牛すね肉の煮込みを、一人は猪と牛のハンバーグをチョイス）コーヒーで締め、どの料理も程よい塩加減であっさりしていて食べやすいランチでした。そらまめの箸置き・箸も甲斐工房の作品の様でした。席待ちをする人もいたので甲斐工房へ移動。途中で芳子さんと立ち話をし工房へ。私は、そらまめ箸置きとマグカップを二個ずつ購入、ほのぼのとした形の箸置きは我が家の食卓テーブルで存在感を放っていてどちらも毎日使っています。皆さんもそれぞれ好みの物を購入していました。庭に出て、気になっていた木（葉っぱの上に真っ白い花が列を成して咲いている花木でなんとなくハナミズキの様な感じ）について芳子さんに尋ねると「ミズキ」と教えてくれました。花の付き方が珍しく可憐で私は大好きになりました。

『こもれび』を後に、次の目的地『上黒岩遺跡考古館』へ。この遺跡は、1961年5月、土地の所有者が水田を広げ様と30cmほど掘り下げたところ貝殻が大量に出土、帰宅した中学生の義照さんが学校の授業で習った貝塚ではないかと貝殻と一緒に出来た土器を現在の美川中学校社会科の森岡俊一教諭に見せ遺跡発見となった。美川教育委員会から愛媛教育委員会へ届けられ、6月西田 栄氏（当時、愛媛大学助教授）が現地に赴き、貝とともに人骨下顎部、押型文土器の出土を確認。第一次調査1961年10月美川中学生も参加を

し地元の全面的な協力のもと行われ、知らせを受け赴いた慶応義塾大学の江坂輝弥助教授は遺跡の重要性に驚き日本考古学協会に日本洞穴遺跡特別調査委員会を設置、第二次調査1962年7月、第三次調査1962年10月、第四次調査1969年8月、第五次調査1970年10月に行われた。発掘では、岩陰に沿ってトレンチと呼ばれる溝状の試掘溝を掘り、地区を分けて層位毎に掘り下げ、奥側からは多数の埋葬人骨が出土したほか多数の遺物が出土した。しかし、遺跡自体は国の史跡として現地に保管されているにもかかわらず、残念なことに遺物の一部がここに展示されているだけで、慶応義塾大学・歴史民族博物館などに分散地元に資料を集め一括保管すれば重要文化財に指定されるだろうが、この考古館も老朽化し新たな保管場所の確保が必要（上黒岩遺跡考古館の資料より）地域の住民二人で施設の管理をされているようで、依頼をすれば展示品の説明をしてもらえるそうです。

この後、sa.kさんのご主人が眠っているお墓に立ち寄りお参りをし、帰路に就きました。お天気もよく、新緑の清々しい空気を思う存分体に取り入れられ良い一日でした。SA.Kさん案内ありがとうございました。Hさん運転お疲れ様でした。

(A. M)



＜水木＞ミズキ科の落葉高木
芽をふく時、大量の水を吸い
上げるのが名の由来。

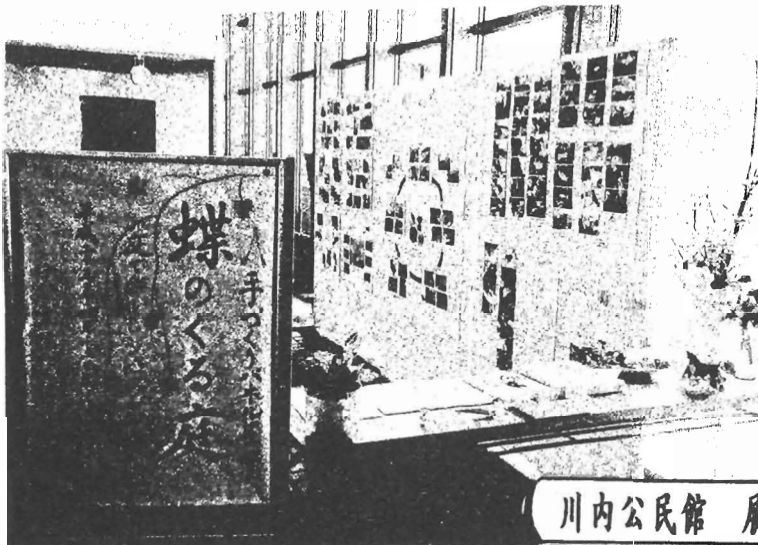
「蝶のくる庭 ミニパネル展」その後

3月11日～3月31日東温市中央公民館での展示を終え、続いて4月12日～4月23日（土）の間、川内公民館ロビーでも『蝶のくる庭 ミニパネル展』を開催しました。こちらのロビーから塩ヶ峰などの山々が真正面に見え、気持ち安らぐ感じですが（準備の日、塩ヶ森ふるさと公園の桜が形作った桜色の鳥が羽を広げたような姿を間近で見ることができました）住民の出入りが多く公民館活動が盛んなようで、沢山の皆さんに見てもらえそうでした。

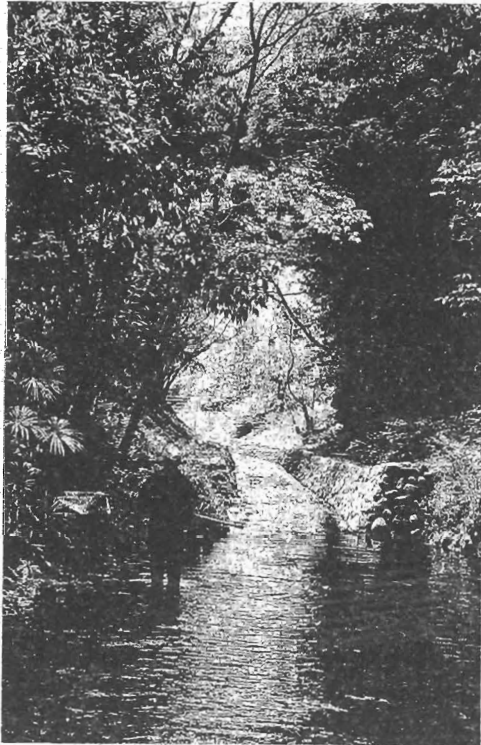
展示を終え、時間に余裕のあるメンバーで改修工事が始まっているらしい「三ヶ村泉」へ。途中、らくれん工場後ろの表川沿いの桜並木を眺めながら（山・川・桜の彩りといい空気の桜スポットでした）泉に到着。様子が違う！回りの木々がずいぶん伐採され、すでに泉の出口水路部分はコンクリートで固められ（石を組み込んではいませんが）鏡部分には太陽が燦々と降り注ぎ、水辺の植物はほとんど無くなっていました。今後、折を見ては様子を見ていく必要がありそうです。この後「柳沢泉」へ。ここもすでに木々の間引きがなされ以前よりも明るい感じ。どちらの泉にも工事予想図の立て札があったので、様子はもっと変わっていくのでしょうか。

泉の工事が始まっているらしいとの情報は、「三ヶ村泉の絵葉書」の写真提供者であるS氏、3/31パネル展片付けの前に彼の職場を訪れたときでした。その部屋には、S氏のつくった水辺の動植物や環境を主題にしたパネルが壁一面に張られていて、それらを見せて頂いた時の話の流れの中で出てきたのでした。以前から学者や有識者の意見を取り入れ改修がされるとの話は知ってはいましたが、現実を見てしまうとショックです。『重信八景』にも入っている「三ヶ村泉」でもあり、大切な場所として大きく変貌してほしくないという願いばかりです。

(A. M)



川内公民館 展示の様子



改修工事が進む三ヶ村泉。下流の水路はコンクリートや石積で整備し、手前の泉本体も来年度に着工予定＝5月25日、東温市田窪

松山平野の泉の中でも多様な生き物を育み、希少種も数多く生息する東温市田窪の三ヶ村泉(さんかそんいずみ)で、湧水量を確保する改修工事が進んでいる。識者や住民らの議論を受けて市は昨年11月、水路のコンクリート化などを始めたが、自然観察団体や訪れた住民からは「魚や昆虫の姿が少なくなった」との指摘も上がっている。

生命の水辺 改修で波紋

東温・三ヶ村泉

市 生態系保全に努力 住民「魚や昆虫減った」

この泉は約2500年前、重信川の伏流水を農業用水に使うため農民らが掘削してできた。泉の周りは林となっており、県レッドデータブック掲載種のカワブキが確認されるなど昆虫研究者らの注目を集めている。

この泉は約2500年前、重信川の伏流水を農業用水に使うため農民らが掘削してできた。泉の周りは林となっており、県レッドデータブック掲載種のカワブキが確認されるなど昆虫研究者らの注目を集めている。

水質として重宝され、近年、腐葉土や土砂の堆積で湧水量が減少。泉を管理する近隣の3土地改良区の要望で改修案が浮上した。市は本年度にかけて泉の下流、来年度に上流と泉本体を整備する予定。泉は掘り直して湧水量を確保し、護岸を石積にして土砂の流入を防ぐ。上流と下流の水路はコンクリート造りで土砂を防ぐことにしている。

生態系の保全策については、環境保全団体や研究者らと検討委員会を設けて協議を重ね、泉の中央に手を加えないよう工事区域を設定したり、泉の南岸は保全区域として現状のまま残すことなどを決定。泉のわきによどみのある「ワンド」を作り、トンボなどが避難したのを見届けながら工事するとした。市農林振興課は「今は土砂で管理もままならない状態。長期的にみて生物のすみやすい環境をつくる工事を進めたい」とし、「専門家のアドバイスをもらいながら、委員会での出した結果に近づく努力をしていきたい」と説明する。

しかし下流中央部の水路工事が終わり、市民からは結果を疑問視する声も上がる。例えば、泉の中央に手を加えないよう工事区域を設定したり、泉の南岸は保全区域として現状のまま残すことなどを決定。泉のわきによどみのある「ワンド」を作り、トンボなどが避難したのを見届けながら工事するとした。市農林振興課は「今は土砂で管理もままならない状態。長期的にみて生物のすみやすい環境をつくる工事を進めたい」とし、「専門家のアドバイスをもらいながら、委員会での出した結果に近づく努力をしていきたい」と説明する。

山形によると、毎年この時期に群れて飛ぶが今年ほどほとんど確認できず、危機的なレベルに話す。水路を覆う木が切り払われ、明るさが変化したことなどが原因とみている。一方、元委員会メンバーの松井宏光教授(植物社会学)は、水草の生育のために光を入れる必要があったと指摘し「植物の一部は(別の場所に)移植している。再び戻すため(将来的には)工事前に近い状態になるだろう」と説明。工事の在り方については「今後も泉を注意深く見守り、随時対策などを提言していきたい」と話している。(中藤玲)

6月例会報告

6月14日（火）9:30から、白形さん主催による『自然観察会』にメンバー6名で参加しました。八幡浜から参加された方々、「水をきれいにする会」の方々、東温市の職員の方々と15名ほどの観察会でした。集合場所で、この日の学習と予習をPCで1時間ほどスライドショー形式の説明を受けました。学習内容としては、

①オオカワトンボの名称が変わるという事。全国にはオオカワトンボの近縁種にニシカワトンボとヒガシカワトンボがいましたがDNA鑑定によりオオカワトンボとヒガシカワトンボは同種と判明、旧名前と混乱を防ぐため<ニホンカワトンボ>となり、ニシカワトンボは<アサヒナカワトンボ>と変わる。

②ニホンカワトンボとアサヒナカワトンボの見分け方。<オレンジ羽>ではニホンカワトンボは翅に大きな不透明な部分（白い斑紋）があるのが、アサヒナカワトンボには無くあってもかなり小さいもので比較的分かりやすいが、<透明羽>では体の大きさ・縁紋の形状・飛び方の違い（はばたきの強さ）など違いはあるが、個体差もあり見分けるのは難しい。

③無色透明羽のオス・メスの見分け方。羽先端の”ポッテン”（縁紋）が赤いのがオス 白いのがメス です。 ※当日資料より※

他にも、見られる場所によっても違いがあり、見分ける目を養う大変さを感じ私は気後れしてしまい、この後の現地観察大丈夫かと不安になりました。

車で重信川へ。河川敷で下車、白形さん命名「オニグルミの小道」を通りマムシを気にしながら歩く事10分余りニホンカワトンボ生息地に到着。アシの茂みや枝先にPCで見たニホンカワトンボが。以外に小さい！！結構動かずじっとしているので写真の撮り易さに驚きました。長靴を用意している方々は湿地の中でしっかり観察をしていましたが、私たちは準備をしていなかったため、少し離れた所からその様子を観察。トンボが生息できる自然環境が揃っているこの場所を記憶しておくこと、これから行く改修工事の始まった三ヶ村泉に足りない条件が見えてくることのことでした。

生息地の条件①緩やかに流れる川 ②常に水分のある湿地 ③繁殖・休息ができる水辺の草や木（私の記憶としてはこの三つの条件だったのですが）この道筋には珍しい植物、最近見掛けることのないカタツムリなど名前を聞

きながらの贅沢な観察会となりました（例、い草の仲間でホソイ・ミズキの仲間でクマノミズキ…）もっと色々説明を受けながら歩いていたのですが、うっかり筆記用具を持たず出発してしまったので具体名を書けなかった事が残念でなりません。反省！！

ここからは8人で三ヶ村泉への移動。トンボは見られず、水草もほとんど無く（マツモ…）あれほどあったクレソンも消えてしまい「三ヶ村泉の絵葉書」の豊かな生態系が見られずとても寂しい感じ。数年かけ入口水路も二面コンクリート張りになり、鏡の部分の改修が進めば今以上に無機質な感じになってしまうのかもしれませんが。以前見られたような”ニホンカワトンボの乱舞”が見られる様になるのか心配です。水の質が変われば農業用水として利用し作った作物の味も微妙に変わってしまうかもしれません。

改修済みの下流へ移動。二面コンクリート張りの部分と以前のままの水路の境を見れば一目瞭然、早速先程の記憶が役に立ちます。トンボが一匹姿を見せてくれ10分近く私たちの近くの木の葉に止まっていました。

お天気にも恵まれ、こんな身近にニホンカワトンボを感じられ、3時間余り最後まで参加が出来、楽しい時間でした。解散後、男性参加者の方々は又観察に出かけた様でした。 (A. M)

季節はズレですが、少しだけスミシの見分け方を……

【白形さんつながりのお知らせ】

☆広報 とうおん 7月号より
白形さんのコーナーが始まる
そうです。お楽しみに！！



☆こちらの →
イベントを開催するそうです。
お花好きのお友達と一緒に
参加してみませんか！！



東温市のスミシ

山野に咲く可憐なスミシたち
よく見ると、寝ているようで少し違うような
そこで見分け方のポイントを伝授。
何種類、見分けることができるでしょうか。

日時 6月26日 午後2時～4時
場所 川内公民館 視聴覚室

自然、大好き人間 大集合！！

東温市商工会 担当：しらかた



< リフォーム >

築21年の我が家で、水周りのリフォームを4月末から5月始めにかけて決行した。リフォームしなくても使えないわけではないので、前々から試行錯誤していたのだ。リフォームを考えて家の中を見回すと、あそこもここもと切りがない。

費用がかかり過ぎると思い直し、リフォーム場所を絞った末に風呂と洗面所のみのおリフォーム計画にした。友人の紹介でリフォーム会社を決め、風呂製品を展示してあるショールームに行った時からリフォームの具体的な形が見えてきた。

ショールームは<当然だろうが>製品紹介が上手く出来ていて、客はここでリフォームしようとしているバスルームそのものを7~8種類、見ることができてリフォーム意欲をかき立てられる。

営業ウーマンと話しながら、一つ一つの部品の色や形をパソコン上のイメージ画面を見ながら決めていく。製品ランクによって選択出来る色や形がある。なかなか良く考えられていると思った。私はここでは、諦めるべきは諦める！に徹した。

後日、見積もりをリフォーム業者と点検し確認しあって工事に入って貰った。

工事に入ると既存の風呂を撤去するための音は大きいし、工事する人の出入りは頻繁で、しかも朝8時を待ちかまえたように始まるので、思った以上に疲れてしまった。

洗面台と洗濯機の設置場所変更を頼んだので、洗面所が使えず台所での歯磨き、洗顔、手洗いを余儀なくされた。毎晩、銭湯通いもした。

終わってみると、10日間の事だったのに工事中はやけに長く感じられた。

水周りの配管を台所も追加して取り替えて貰ったので、よほどのことが無い限り配管については今後20年は心配ないと思っている。私はリフォームを決行して家の安心を手に入れたので、リフォームして良かったと思う。

さて、人間もアラ還になると体のあちこちが気になり出す。弱った所も痛い所も出てくる。もし、家の様に人間の体もリフォームできるならば、どこをリフォームしたいだろうか？脳？血管？内臓？それとも顔？惜しいかな人間の体は全部取り替えるなんて出来ないだろうし、一部だけのリフォームにしてもそう簡単には出来ない。

我々人間は、体の老化をやはり静かに受け入れなければいけないのだろう。

体は仕方ないけれど、心掛け次第でいつまでも若く保持可能なのは精神だと考える。

周囲の人間関係を大事にし、生活に目標を持ち、その折々の生活事情に気持ちをリフォームしながら、これからの20年を大事に歳を重ねたいと思っている。 (R.D.)

おからでショコラケーキ

最近、歯の調子が悪く、週に一度の割合で歯科医院に通院している。朝、一番の歯の治療を終えた後で、歯科の近くの小さいスーパーに寄ると、そこで、おからを目にした。おからといえば、定番はうの花。一袋を買えばびっくりする程のうの花ができあがる。体に良いとは言いが、何度も同じものを食事に出す勇気もない。そこで、半分をうの花にし、残りを別物に使いたいとアイデアをインターネットで探すことにした。情報は溢れているが、以前にも、クッキー、ケーキと作ってみたが、納得できる味には巡り合えなかった。しかし、今回はグッドの味に。出来上がったものを知人に食べてもらったが、おからだけでこの味なら○という意見が大半だった。

是非、おからのレシピに加えて下さい。本当に簡単です！

材料 生おから 100g 、ココア 60g、 卵 2個 、砂糖 40～60g、牛乳 50g、
バター（マーガリン）50g （私はこの分量の倍で作りました。）

- 1 型に油脂を塗っておく。オーブンは180度に余熱しておく。型には、粉をふるった方がいいかもしれませんが、私は粉をふるいません。
- 2 生おからとココアをよく混ぜ合わせる。スプーンで押すように混ぜるとやりやすいと思います。
- 3 牛乳を温め、マーガリンを加えて溶かす。
- 4 3を2のボウルに入れ、よく混ぜる。
- 5 ボウルに卵と砂糖を加え、よく混ぜ合わせる。
- 6 2のおからの中に5の卵を1/3ほど加えてよく混ぜたら、残りも加えて混ぜる。
- 7 型に入れて、180度で30分焼く。様子を見て時間は調節してください。
倍の量で45分～50分焼きました。焼けているかどうか、確かめて下さい。
- 8 焼きあがったら型に入れたまま冷ます。そのまま冷蔵庫へ。
- 9 型から出す時はしっかり冷えてからにしてください。温かいままだと、崩れやすくなります。私は早く食べたくて急いで取り出したため、少し、崩れましたのでご注意ください。

* お好みでラム酒もいいと思いますが、私は使っていません。（M T）



賞味期限

いつの頃からか、賞味期限という言葉が用いられる様になり、私も買物に行くと、常に期日を見る。

納豆、豆腐、肉、魚、惣菜、どの品にも記入されているので、安心して食べる事が出来る。

夫が亡くなってから体の調子が悪く、元気も意欲も出ないので、愛大病院で人間ドックに入る事にした。結果はどこも悪くないというので、今の様子を聞いてもらおうと、総合説明の医師が循環器の方だったので、菊池さんのご主人は、「透析12年もしたのだから、賞味期限切れよ。」そんなにめそめそしないで、「長い間、ご苦労さん、お疲れ様でした。」と祈ってあげてと言われ、私も12年を振り返り二人でよく頑張ったんだ、と自分に言い聞かせ、その場では納得した。でも、「人間も品物も同じ価値なのか」と憤りを感じながら、家に帰った。

数日してテレビか新聞で透析患者についていろいろ説明があり、機械が腎臓の代わりをしても、毒素が残ったり、体の中に必要な物まで取り除くので、合併症が怖いという事だった。

説明に依ると、透析は統計上、5年で40パーセント、10年で70パーセント、15年で85パーセント死亡するとの事だった。

これらの知識があれば、二人で話し合い食べ物ももっと気を付けたらうし、限られた命についてもより添う事が出来たのにと残念でならない。

物言わぬ人になってから、取り越し苦労しても仕方ないので、私が立ち直り一人で生きて行けるよう、健康も精神力も気を付ける事だと思ふ様になった。今では、キリスト教会に、英会話に、くらしの学習会にと外に出て、友達と話し合う場を多くしている。家にいても、時間を上手に使い自分が終わる時に、精いっぱい生きてと思える人生にしたいと心がけている。

(Sa・K)



雑 感

あの大震災から3ヶ月を迎えた6月11日、二日前に早々と梅雨明けした沖縄地方を除いて九州は梅雨前線の活動が活発になり、えびの市では降り始めからの雨量が500mmを超えるなど荒れた天気が続き、新燃岳周辺では土石流が心配されました。綾町でも前日からの強い雨は治まることなく激しさを増し、我が家の傍を流れる綾南川も上流のダムが放流されて水量が増し、12日深夜になっても放流を告げる赤い警告灯は消えることはありませんでした。いつもなら鮎漁解禁を待ちかねた釣り人が糸を垂れる静かで清んだ水面は茶色く濁り、橋脚近くでは渦を巻き白い飛沫をあげた荒々しい流れに恐怖を覚えました。

13日になり漸く小雨になりダムの放流も停止しましたが、15日から又雨足が強まり16日には各地に大雨、洪水、雷、竜巻注意報や警報に加え、土砂災害危険情報が出されました。17日からは再び綾南川のダムの放流が始まり、どんどん上がっていく水位に不安な夜となりました。

幸いなことに18日現在、新燃岳周辺には土石流は発生していないようですが、雨は益々激しく綾南川の対岸の山や木々、家並は全く見えませんし、叩きつける様な雨や水量を増した川の流れて、テレビやラジオの音もかき消されています。

東北・太平洋沖大地震発生から3ヶ月。今も映像で見る限り辛うじて車が通れるようになってはいるものの倒壊した建物と瓦礫の山はあの時の儘、時が止まっているかの様に見えます。それどころか、じわじわと放射能による汚染が大気に、土壤に、海に広がり、復旧、復興どころか問題はますます大きく深刻になっているようにさえ思えます。

事故を起こした福島第一原発は、当初から懸念されていた危惧が次々に小出しに発表され、収束の糸口すら見えません。冷却のために大量に注入された水は放射能に汚染され、今にも溢れ出しそうです。汚染水の浄化装置も次々に不具合が見つかりなかなか運転の目途がたたず心配されていました。漸く、17日夜浄化装置の本格的稼働が始まったようですが、稼働し始めても、セシウムやストロンチウム、ヨウ素などの放射性物質の沈殿物は当然のことながら超高濃度放射性廃棄物として残り、これは高濃度汚染水の100倍以上の濃度になるといわれています。この放射性廃棄物は一時的に保管されるようですが根本的な処理法は決まっていません。今回の事故で、水素爆発で壊れた建屋や津波で流されてきた瓦礫、冷却に使われ汚染

された水、炉内で溶融した 1496 本分の核燃料など膨大な量の核廃棄物も処分の方法の見通しすら立っていません。もともと事故を起こさなくても原発由来の核廃棄物は捨て場もなく、老朽化した原発自体処分出来ない為、廃炉に出来ないまま 40 年以上使い続けているのが現実なのです。

まやかしの原発安全神話のもと、国策として原発を推進してきた自民党に大きな責任が有るのは言うまでもありませんが、私達一人一人も、もっと便利に！もっと快適に！という欲望を満たすため安全神話をおかしいとどこかで思いながらも信じたいと思ったからこそ長きに亘って自民党政権が続き、この狭くて地震国である日本に 54 基もの原発を造ることを容認してしまったのです。

それにしても、その自民党で早くも「原発維持」に向けて原発推進派の議員が集まり「エネルギー政策合同会議」と言う政策会議を立ち上げたという記事(5月5日朝日新聞)を目にした時は唖然としました。委員長の甘利明氏は「我々は市民活動家ではない。膨大なコストや不安定性を覆い隠し『自然エネルギーで何とかなる』と言うのは無責任だ。現実問題として原子力をなくすわけにはいかない」と語っています。また、この合同会議設立目的を電力需要対策とエネルギー戦略の再構築の検討としていますが、党幹部は「原発を守るためにつくった」と明かしたと言います。参与として東電の元副社長で現在は東電顧問の加納時男・元参議院議員までが名を連ねています。この合同会議の人事に抗議した自民党の河野太郎衆議院議員の意見は即座に退けられました。同日の同紙面に加納氏と河野氏のインタビュー記事が掲載されています。加納氏は今後も原発は必要との姿勢で河野氏の意見を 自民党の意見になったことは無い、反原発の政党で活躍すればよい、と切り捨て、低線量の放射線はむしろ健康に良いと断言しています。河野氏は、利権がらみの政・官・産・学・メディアが原発の「安全神話」をつくりあげた、利権で原子力行政をゆがめてきた自民党がやるべきことは謝罪だと主張します。

大きな利権の前に御用学者を創り出し、異論を唱え、警鐘を鳴らす学者を異端視し、素人に対しては、自分たち専門家は総てわかっているのだから黙って従えば良いという愚民視があり「原子力村」と評される身内だけで物事が決まり進められてきたのです。

ドイツではメルケル首相の下、原発容認へと動いていましたが、今回の福島での事故を受け、5月30日、2022年までに総ての原発を廃止することを決め、イタリアでも6月14日、国民投票で原発廃止が支持されることが確実となり、ベルルスコーニ首相も15日、国民の意志を尊重し、

原発の新設、再稼働を停止すると表明しました。スイスも原発廃止をきめ、脱原発の動きは世界中で大きなうねりとなってきています。

イタリアの国民投票を受けて14日、自民党の石原伸晃幹事長は「集団ヒステリー」だと評し、海江田万里経産相も原子力堅持を7日に明言していたことが判りました。海江田万里経産相は17日、重ねて、点検のために停止している原発の総てで安全管理が適切に実施されることを確認した、電力不足が経済に及ぼす悪影響は測り知れないとして、再稼働に理解を求める会見を開きました。哀しくなります。まだ、総ての危険を想定できると思いがっているのでしょうか。核という怪物を懐柔できると信じているのでしょうか。

何故、ドイツ、スイス、イタリアで出来ることが事故の当事者である日本で出来ないのでしょうか。

それどころか与野党ともに何故か復旧、復興の遅れを菅首相の存在こそが悪である、という論理にすり替えて政争の具にしてしまっている様で非常に不愉快です。マスコミも菅首相は思い付きを口にするだけ、と酷評します。しかし、最小不幸社会、税と社会保障の一体化改革、浜岡原発の停止、再生可能エネルギーに関する法案・・・他の首相よりマシなことを“思い付”いているように思えるのですが・・・。今はとにかく与野党協力して地震、津波、原発事故の被害からの復旧に全力投球すべきです。与野党大連立だとか、代表選挙に費やす時間もお金も無いのです。今この瞬間にも、家族を、家を、職を失い途方に暮れている人達が存在していることなど頭の片隅にすら無い様に思えてしまいます。

震災から100日、“ニーバーの祈り”と“浜矩子氏が紹介された一文”が頭を離れません。

—神よ、変えられないもの(自然災害)を受け入れる心の静けさと

変えられるもの(原発依存)を変える勇気と

その両者を見分ける英知(命を守る優しさ)をお与えください— “ニーバーの祈り”

—今どこ(自然災害と原発事故の複合震災)にいるのか

どこ(安心、安全な社会)へ行きたいのか

どうやって(原発依存か省エネ+自然エネルギーかの選択)行こうとしているのか

地図(人間は自然の一部に過ぎないという認識)は持っているのか

—“浜矩子氏が紹介された一文”

かつこの中は私が勝手に置き換えて日々呟いている言葉です。

昨年亡くなった人類学者の梅棹忠夫氏の未刊の書「人類の未来」の“こざね”が公開され注目を集めています。40年も前に200万年後の人類の未来について刊行を予定しながら成されることのなかった書です。梅棹氏は、人類は“知的生命体”であるが故に、科学は人間の“業”であるとし、科学は人間の墓穴を掘り人間は滅亡する、としています。それはどうしようもないこと、としながらも最後に“暗黒のかなたの光明”という救いを残しています。その光明を、宗教学者の山折哲雄氏は人間の持つ理性と英知の内の英知だと読み解きます。“理性”は科学する西欧の文化に代表される“選ばれし者のみ生き残る”—ノアの方舟—であり、一方“英知”は仏教思想に代表される“三界の火宅に居る総ての人を助ける”心だとします。

効率や成果ばかりを重視してきた私たちがどこかに置き忘れてしまった心かもしれません。

三月最後の日、我が家に新しい仲間がやって来ました。2月11日生まれの雌犬、杏です。我が家には既に大型犬の大五郎が居ます。私達夫婦が歳をとってから飼い始めたせいで、お世辞にも躰が行き届いているとはいえない40kg近い大五郎です。3.8kgしかない杏が傷付かない様考え得る万全の準備をしました。大五郎が旅行する時に使う頑丈なケージに杏のベッドとトイレを入れ、食器の周りには柵もしました。ところが杏が寂しがって泣き止まないのが根負けして、恐る恐る杏をケージから出し、柵も取り除きました。私達の心配は全くの杞憂でした。大五郎はじゃれつく杏の全てを赦し為すがままでした。嬉しい誤算でした。今は14kgになったやんちゃで気の強い杏の首筋を優しく噛んで、躰をする大五郎父さんです。「犬のことは犬に任せて」という大五郎のママの飼い主さんのアドバイスのおかげです。

五月末から我が家の周りではホタルが飛び始め、夜毎、家の灯りをすべて消して外のホタルを眺めています。たまに雨が止んだ夜は外に出て、ホタルを両掌に囲って暫し目近に楽しみます。ある夜は家の中までついて来たので写真を撮ってから外に出してやりました。このところの大雨で心配しましたが昨夜も裏の叢で静かに点滅しているのを見て胸を撫で下ろしました。

梅雨入り間近の東北でこれ以上の被害が有りません様に。 (K. O.)



春の同居虫

春になると毎年、我が家には同居人が増えます。といっても人間ではなく虫なので、同居虫とでもいうのでしょうか。

最も目立つのはハエトリグモです。なんという種類かはわかりませんが、体長1cmにも満たない黒い体でぴょんぴょん跳ねて、主に網戸の内側に暮らしています。我が家では、網戸1枚につき1匹のハエトリグモが陣取っており、朝、窓を開けるときに必ず目が合う（気がする）ので、つい「おはよう」と声をかけてしまいます。

ハエトリグモは、網を張らずにあちこちをぴょんぴょんして獲物を探し回るクモで、種数も多く、日本にもたくさん生息しています。足が短く、ころんとした体型で、壁や床などをぴょんぴょんしているクモといえば、おそらく多くの方が「ああ、あれか」と思いあたるのではないのでしょうか。

漢字で書けば「蠅捕蜘蛛」。ある日、1匹のハエが家の中を飛んでいたの、網戸に追い込んで窓を閉めました。すると、やってきました、ハエトリグモが一 彼（彼女？）の存在をすっかり忘れていた私は、とっさに悩みました。ハエを部屋に戻そうか、このまま外へ出そうか… でも、この悩みは無用でした。ハエトリグモはあつという間にハエを捕まえてしまったのです。

昔々からハエトリグモは、私たちの祖先の目の前でビシッとハエを捕っていたに違いありません。その功績があってこそ、この名前をつけられたのでしょう。そしておそらく私のように、その習性をありがたがって追い払わずに一緒に暮らしてきた人も多かったのではないのでしょうか。

さて、ハエトリグモの次によく見かけるのはハサミムシです。お尻のハサミにはドキッとさせられますが、毒はないらしく、挟まれてもそれほど痛くないからという理由で「不快害虫」とされています。不快だけで害虫呼ばわりされるなんて気の毒だわと思いつつ、なんとなく好きにもなれないので、見つけたときには外に逃がしています。

それ以外に、小さな蛾、カツオブシムシ（経節虫）、アリなど、いろんなものが同居しています。もちろんゴキブリも一 レイチェル・カーソンの心配する「沈黙の春」。この辺りではまだ無縁のようで、春は何かとにぎやかです。 (T・S)

活かしたい来場者の声

庭の仲間たちを見ても
思い入れの深さが偲ば
れます。ゆっくり見たい
です。ありがとう。三ヶ
村泉なんて訪れてみた
いです。

これを作って作品に
するまでのプロセス
が楽しかったことで
しょうね。題の付け方が
ステキです。

こんなにも多くの蝶
がいたのかと驚き
でした。庭に蝶が
いる風景すてきで
すね。

♀と♂が分かるなん
て、素晴らしい！

ジャコウアゲハの魅力
に魅せられました。美し
いです。いつか見たら
写真を思い出します。

「先になり後になりして
蝶と吾れ」という迷句
を昔作ったのを思い
出しました。

重信にはとても素敵
な自然が残っているとい
うことは住んでいて誇り
に思います。残してゆ
く義務がありますね。

お知らせ



・7月例会のお知らせ

7月6日(水) 午後1時から 林宅にて

前ページの来場者の声を活かし、パネル展の今後について、話し合います。
このところ、外に出ることが多かったので、7月例会は、じっくり話し合う時間になります。

・読者の声・投稿などお待ちしております。

くらしの学習会では、随時会員を募集しています。

活動会員 2000 円/年 購読会員 1000 円/年

振込先口座番号(郵便局) くらしの学習会 01610—5—21026

問い合わせ先 TEL/FAX 089—964—6956(林)

E-mail: kt-hayashi@nifty.com

編集後記

九州宮崎に引っ越した会員が、里帰りをしてくれました。6月14日の午後松山に着いて、15日の午後には帰るという極めてハードなスケジュールでしたが、半年振りに仲間が一堂に会し、楽しいひと時を過ごすことができました。いつか、こちらからも宮崎に行きたいと思いました。人との出会い、別れ、そして再会・・・生きていると色々なことがあります、その一コマ一コマを大切にしたいものです。

(T・H)

